

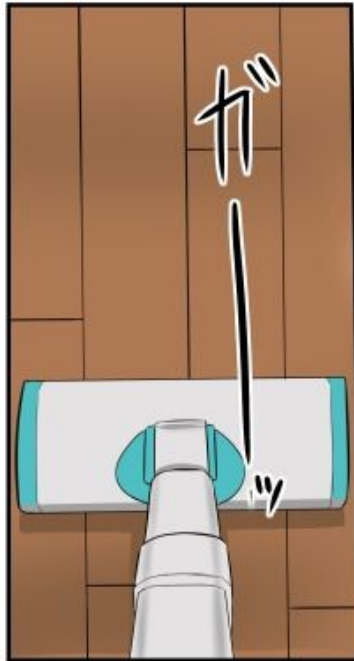
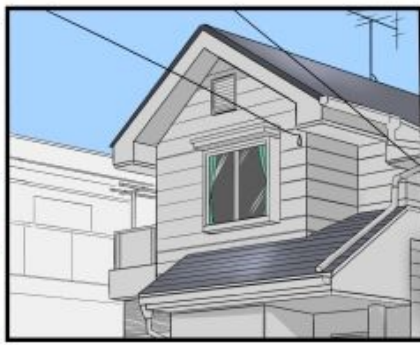
未亡人、再燃する牝の欲望
亡き息子の友人と…

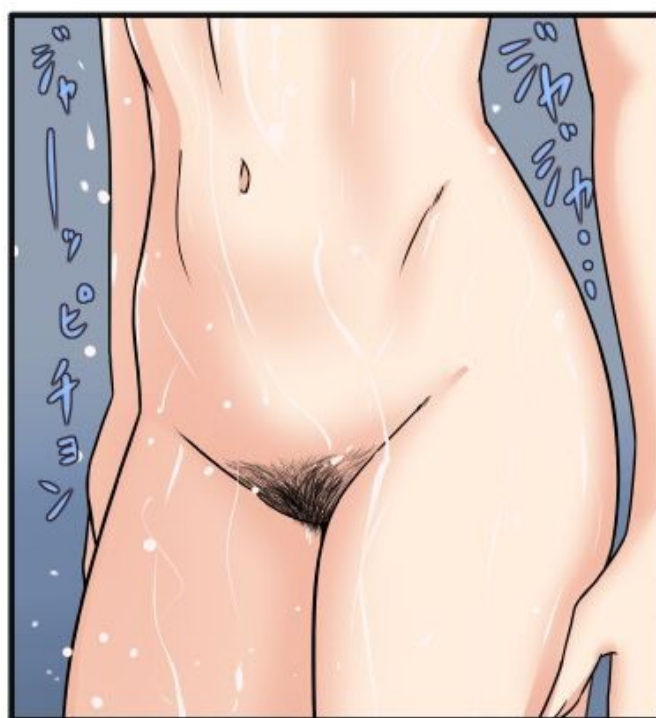


第二章

好色美熟女覚醒編







感情に流されるまま
コンドームもつけずに
浴槽の中で繋がってしまった。

そして最後は膣内射精
までも
許してしまった。

自分の体が
以前とは明らかに
違うことに気付い
ていた



以前よりもずっと
性欲が強くなり
好色な女になっ
てしまったとい
う実感がある。

マモルとのセックスに
明け暮れたこの数ヶ月
が私の体の女の部分を
つくりかえてしまっ
た。かのようだった。

八月後半……





でも、いざ休みになると
今まで練習ばっかりだった
からしたい事とか
思いつかなくてさ

ずっと練習ばかり
だったからね、
ようやく本当に夏休みが
始まった気がするよ



それじゃあ、
サッカー部の練習は
しばらくお休みなのね？

うん！



あら、だめよ？
ちゃんと学校の宿題も
やらないと

ハハ……
大丈夫だよ、いざと
なったら友達の見せて
もらうから

……！



途中からピンと来た、私にも
覚えがある遠い日の夏……
SEXのパートナーができた
ばかりの若い男の子が考える
事と言ったら！

ぴちゅん



ええ……

おばさんと好きなだけ
Hがしたい！



ええ……

それよりさ、
せっかく休みなんだし

ドキッ

既に出産を経験
している私の女の
体はその欲望に感
応し子宮の奥がた
物欲しげに疼いた。

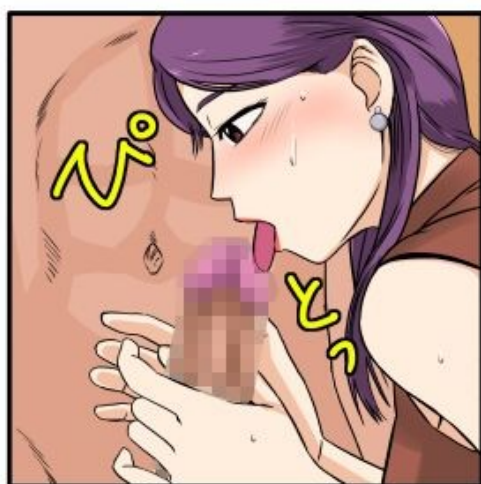




どう
気持ちいい？



ふふっ
もうこんなに
スゴくなっちゃって
…嬉しいわ



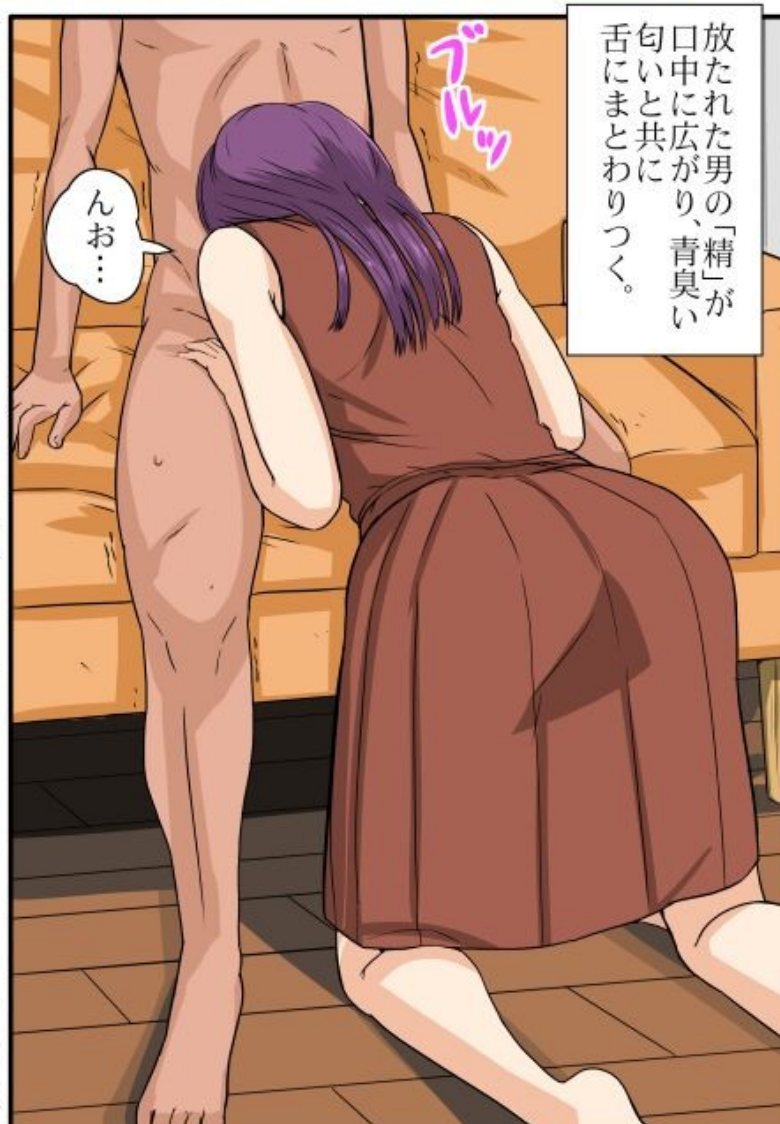
あー





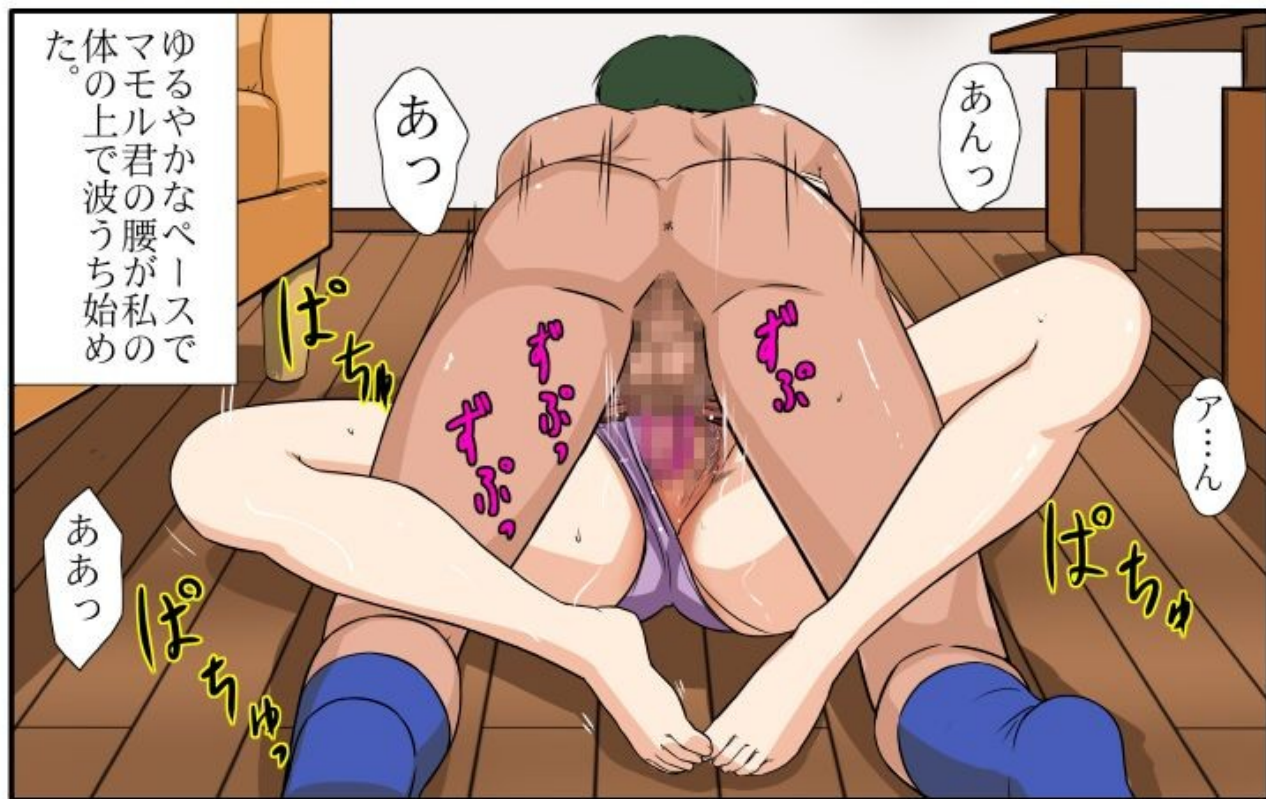


私はそれをマモル君
に向かつて
ゆっくりと
飲み下して見せる。



放たれた男の「精」が
口中に広がり、青臭い
匂いと共に
舌にまとわりつく。









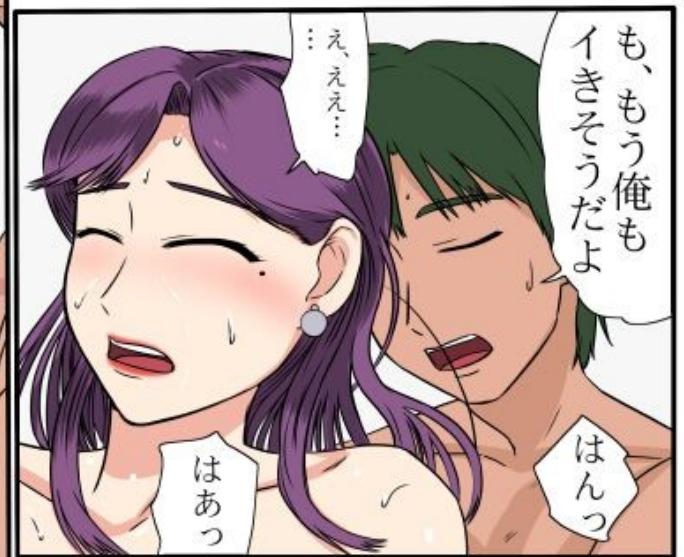
















はあっ

あっ

あんっ

ああっ

はあっ

あふっ

ああ...
す、すごい

おっ
お、奥まで
届いて...るっ
ううっ

ぶるんっ

ゆ、はゆっ

ぱんっ
ぱんっ

ぱちっ
ぱちっ

ぱちゅっ

ずちゅっ

ぱちゅっ

ぶるんっ



この日から数日間、
私たちはひたすらSEX
に溺れる日々を過ごす
事になってしまう...
でも、この日々が私の
体を、心を、生き方さえも
変えてしまうことになる
なんて...

この時の私たちに
は、思いもよらな
かった。











じゃ、じゃあ
背中の方も流す
わね

このままじゃ、
セックス……
ゴムもつけずに
セックスになっちゃ
いそうだわ











理性的な判断よりも性への欲求を優先させた

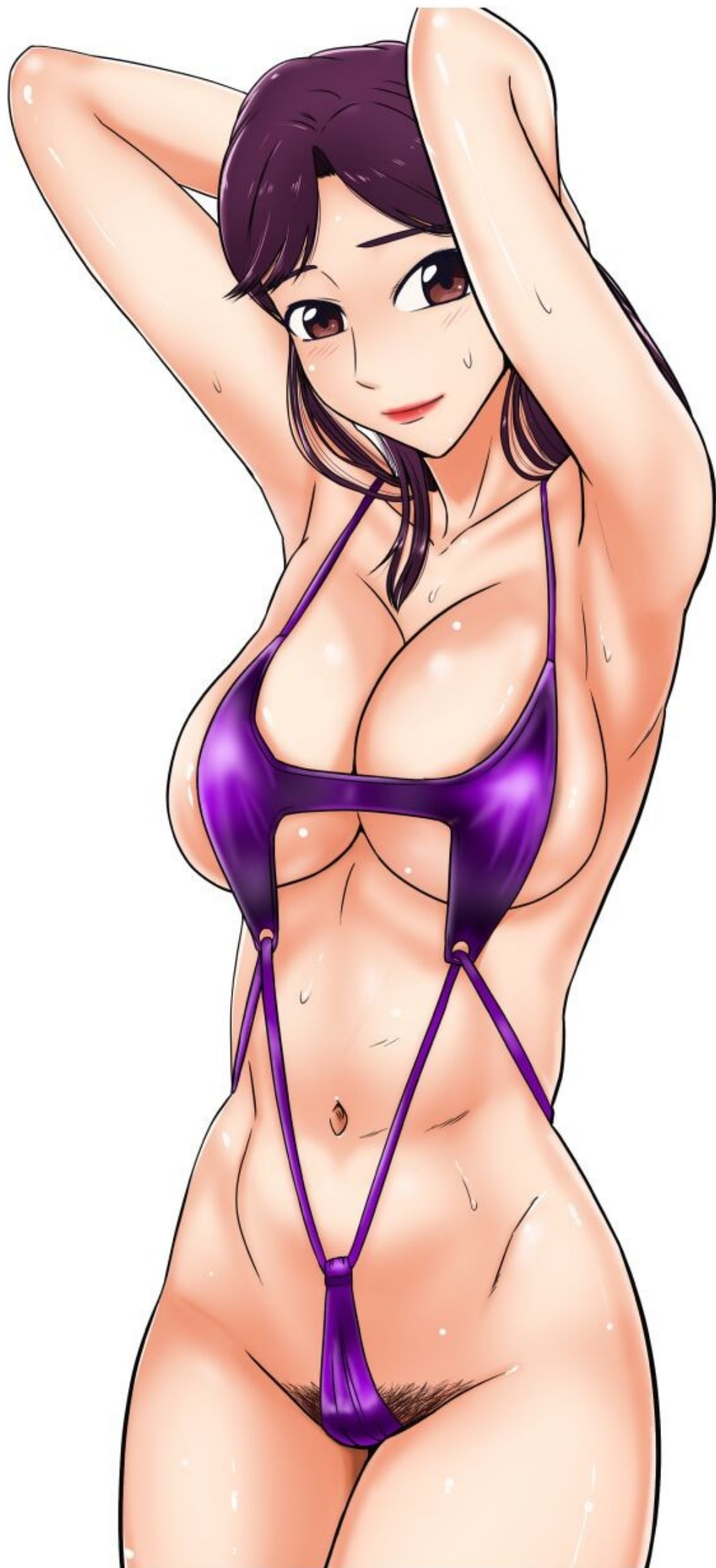
ゴムをつけさせなきゃと思うのに感じすぎた体は

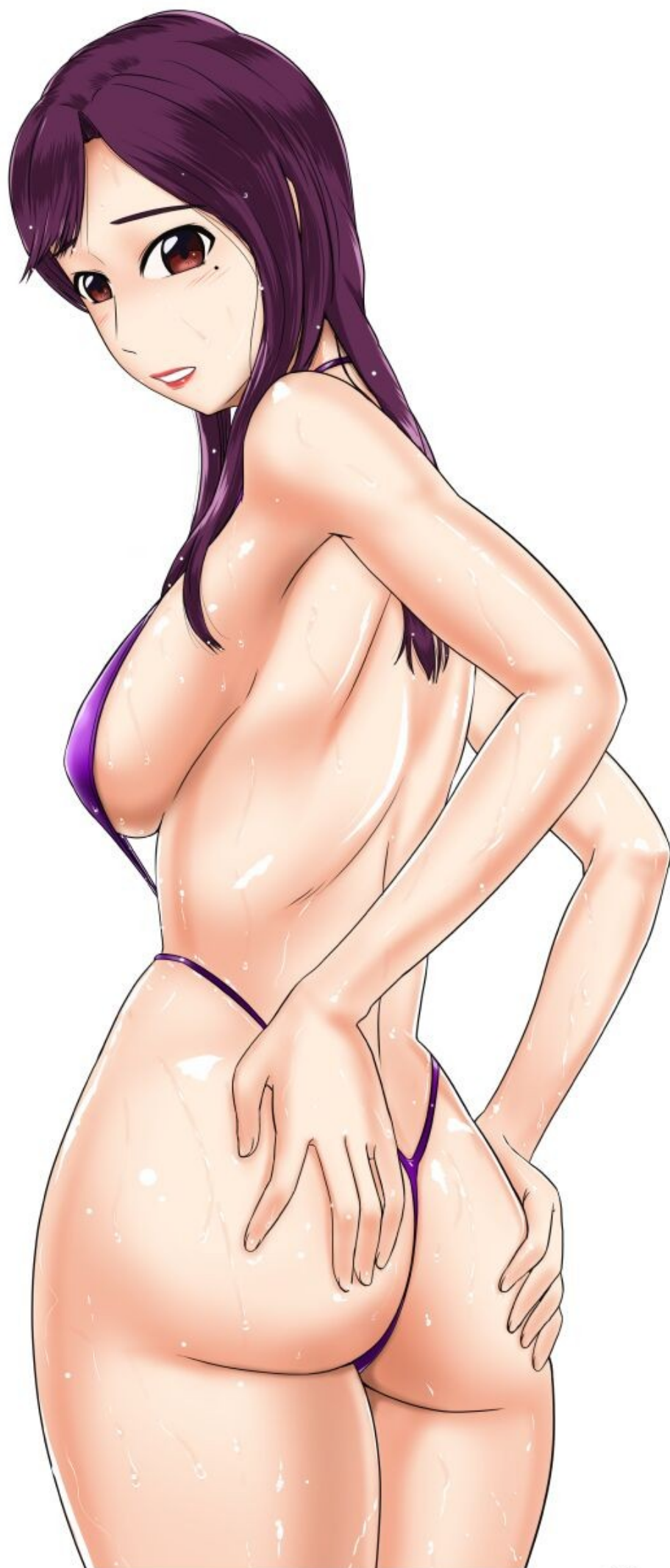














お買い上げありがとうございます。

**当サークルではこの作品に対するユーザーの皆様のご感想
ご意見をお待ちしています。どんなジャンルでどのような
作品が読みたいかなどありましたら下記のアドレスあてに
お知らせ下さい。**

**※当作品のインターネット上での無断配信
、他言語への翻訳等の行為は著作権を侵害する
意図に関係なく違法です。**

utagawayosiero@hotmail.co.jp